

平成29年度(平成28年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(試行版)

「成果及び課題」・・・成果:○ 課題:● 「評価」・・・A:目標を大きく上回った B:目標を達成した C:目標を下回った(又は着手したが実施できなかった) D:目標を大きく下回った(又は着手できなかった)

| 運営ビジョン | | 評価指標 | 年度間目標 | 平成28年度実績値 | 内部評価 | | | 外部評価 | |
|---------|----------------------|------------|-------------|-----------|--|---|------|--|------|
| 基本方針 | 項目 | | | | 成果及び課題 | 評価 | 総合評価 | 委員の意見 | 総合評価 |
| □ 収集・保存 | ① 作品の購入及び寄贈 作品の受入 | 作品の購入点数 | 1点 | 3点 | 【購入】 ○14年ぶりに基金を活用して保田井智之の彫刻2点を購入。当初予算で山内多門の日本画1点を購入した。 ○保田井作品は第1期コレクション展にて展示し、マスコミにも取り上げられるなど、注目を集めた。 ●シュルレアリスム作品を探しているが基金で購入できる作品が少ない。引き続き調査を行う。 | B | B | ・3項目とも目標を達成しており、外部評価はBとすべきである。 | B |
| | | 寄贈作品の受入点数 | 1点 | 5点 | 【寄贈】 ○瑛九の油彩1点(要修復)、太佐豊春の作品1点、山本泰業の日本画2点、保田井智之の素描1点 ●遺族や関係者からの調査依頼に十分に答えられていない現状がある。 | B | | | |
| | ② 作品の修復等 | 作品の修復又は額装 | 1点 | 2点 | ○渡辺小五郎の彫刻1点、平原孝明の屋外彫刻1点の修復を行った。 ●修復を要する作品が多いため優先順位を付けて対応している。 | B | | | |
| | | ③ 保存環境の整備 | 外部委託による環境調査 | 2回 | 2回 | ○9月及び2月に粘着トラップ190箇所、フェロモントラップ108箇所、空中浮遊菌測定37箇所の調査を実施した。 ○9月は主に地下及び1階にて昆虫等の捕獲等があるが、ほぼ侵入・持ち込みと思われ、数も想定範囲内であった。 | | | |
| | 燻蒸(新収蔵及び館外使用後の作品に限る) | | 2回 | 2回 | | | | | |
| □ 調査研究 | ① 研究紀要の発行等 | 研究紀要の発行 | 1回 | 1回 | ○「宮崎県立美術館研究紀要Vol.9 2016」(40ページ)を発行。2本の研究を掲載した。 | B | C | ・「③ 作品解説等の執筆」の目標達成度はAに近いBが妥当であり、総合的に判断して外部評価はBとすべきである。 | B |
| | ② 郷土作家等の情報収集及び作品調査 | 情報収集及び作品調査 | 全分野 | 全分野 | ○県北の彫刻家 渡辺小五郎や瑛九関連の文献調査を具体的に行った。 ●瑛九作品、郷土作品、海外作品、日本画、国内洋画、彫刻、工芸、書の8つ分野を各職員が担当しているが、実際の作品収集との関連もあり、調査の進行程度にはばらつきがある。 | C | | | |
| | ③ 作品解説等の執筆 | 作家・作品調書の作成 | 10件 | 14件 | ○作成した調書をもとに、コレクション展における解説文等で活用したり、データベースの充実を図ったりすることができた。 | B | | | |
| | ④ 講義・鑑賞会等の実施 | 講義・鑑賞会等の実施 | 20回 | 20回 | ○特別展やコレクション展において、ギャラリートークを行い、調査・研究内容を分かりやすく還元できた。 | B | | | |

平成29年度(平成28年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(試行版)

「成果及び課題」・・・成果:○ 課題:● 「評価」・・・A:目標を大きく上回った B:目標を達成した C:目標を下回った(又は着手したが実施できなかった) D:目標を大きく下回った(又は着手できなかった)

| 運営ビジョン | | 評価指標 | 年度間目標 | 平成28年度実績値 | 内部評価 | | | 外部評価 | |
|--------|-----------------|----------------|--------------|-----------|--|--|------|---|------|
| 基本方針 | 項目 | | | | 成果及び課題 | 評価 | 総合評価 | 委員の意見 | 総合評価 |
| □ 展示 | ①コレクション展の開催 | コレクション展の開催 | 4回 | 4回 | ○第3期と4期において、展示替えごとにマスコミ向けのオープニングギャラリートークを実施し、広報の充実を図った。 ●年間鑑賞者は、同年度の3本の特別展の観覧者が伸び悩んだことも影響して、目標を下回った。他の事業とのタイアップや情報提供の充実、興味関心をもってもらう工夫が必要である。 | C | C | ・「①コレクション展の開催」が目標を達成していないが、年間40,000人というのは、過去の実績からみても高すぎる目標であり適切ではない。 ・「②特別展の開催」について、展覧会は来場者数だけでなく内容も大切である。内容が良かったのなら、鑑賞者数が振るわなくてもBとすべきである。 ・目標を達成していない項目が多く、外部評価はCとすべきである。ただし、来年度へ向けて目標が適正なものとなるよう見直していただきたい。 | C |
| | | 年間鑑賞者 | 40,000人 | 29,262人 | | | | | |
| | ②特別展の開催 | 特別展の開催 | 3回 | 3回 | ○「有元利夫展」、「ウッドワン美術館展」、「篠山紀信展」を開催した。 ●各特別展とも質の高い作品鑑賞の機会を提供できたものの、鑑賞者総数は目標に届かなかった。本物の作品の魅力を具体的に広く発信する工夫が求められる。 ○特別展とは別に、特別公開として、近年発見された「伊東マンショの肖像」を公開展示し話題となった。 ●準備に数年を要する自主企画展の企画に向けた調査・研究を継続的に進める体制づくりや、そのための学芸課職員の多岐に渡る業務の効率化と負担軽減化を図る工夫が必要である。 | C | | | |
| | | 年間鑑賞者(全特別展合算) | 50,000人 | 34,178人 | | | | | |
| | 自主企画展等の開催 | 特別展のうち1回 | 0回 | | | | | | |
| | ③館外展示の実施 | 館外展示の鑑賞者 | 2,000人 | 2,154人 | ○移動美術館「旅する美術館・みんなでアート」を木城町と高原町で開催。収蔵作品を26点展示・紹介した。 ○アートを身近に感じてもらうため、来場者が自由に参加できる創作活動の場も設定した。 | B | | | |
| □ 教育普及 | ①成人向け講座等の実施 | 成人向け講座等の参加者 | 500人 | 1,152人 | ○実技講座では100人、講演会では、有元展:61人、ウッドワン展:84人、篠山展:94人、県美展:91人、ワークショップでは722人の参加があった。 | B | B | ・4項目中3項目が目標を達成しており、外部評価はBとすべきである。 | B |
| | | 子ども向け教室等の実施 | 子ども向け教室等の参加者 | 500人 | 580人 | ○創作や鑑賞などの6教室を計15日間に渡って開催した。 | | | |
| | ③美術図書室・映像施設等の充実 | 図書・映像等施設の利用者 | 15,000人 | 15,716人 | ○美術図書室で5,563人、アートシアターで10,153人の利用があった。 ●アートシアターと映像ブースの再生機器が共に老朽化しており、機器の更新や運用方法の見直しが必要である。 | B | | | |
| | | ④館外での教室・講座等の実施 | 館外教室・講座等の参加者 | 500人 | 179人 | ○所蔵作品等を紹介する番組の放映と本物の収蔵作品を使った鑑賞教室「移動ハイビジョンギャラリー」を平成28年度からは県立中等教育学校や特別支援学校も新たに対象として開催し、当年度は4校で実施した。 ●参加希望が4校と少なかつたため、より一層の広報活動が必要である。 | | | |

平成29年度(平成28年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(試行版)

「成果及び課題」・・・成果:○ 課題:● 「評価」・・・A:目標を大きく上回った B:目標を達成した C:目標を下回った(又は着手したが実施できなかった) D:目標を大きく下回った(又は着手できなかった)

| 運営ビジョン | | 評価指標 | 年度間目標 | 平成28年度実績値 | 内部評価 | | | 外部評価 | |
|-------------------|---------------------------|-----------------|-----------------|--|--|----|------|---|------|
| 基本方針 | 項目 | | | | 成果及び課題 | 評価 | 総合評価 | 委員の意見 | 総合評価 |
| □ 広報・発信 | ① 広報誌の発行 | 広報誌の発行 | 3回 | 3回 | ○限られた紙面の中で工夫しながら、幅広い内容とタイムリーな情報提供に努めることができた。 ●魅力的な紙面づくりにより一層努めることが必要である。 | B | C | ・「②ホームページ等の充実」で目標アクセス数を大幅に下回っているが、昨今はSNSに比べてホームページを利用する人が少ないと感じており、目標値の見直しが必要である。 ・「②ホームページ等の充実」の目標は高すぎるし、算定根拠もなく適正な評価ができない。 ・「④広報資料の提供」の内部評価は事業の有効性に課題を感じてCとしたことだが、推測に過ぎず客観性がない。この項目は数値目標を達成したのだからBとすべきであり、総合的に判断して外部評価はBとすべきである。 ・内部評価が厳しすぎる。内容的な課題は別の問題であり、評価は純粋に目標の達成度で判断すべきである。 | B |
| | ② ホームページ等の充実 | ホームページのアクセス数 | 600,000回 | 186,684回 | ○県内外の人にとって美術館の情報を得る重要なツールとしての機能を果たしている。 ●実績値が目標をかなり下回っており、さらに多くの人にアクセスしてもらう工夫が必要である。 ●ホームページの更新は業務委託で行っているため、日時によってはすぐに対応できない場合がある。随時、必要な情報更新が可能となるシステムの構築が必要である。 ○フェイスブック(FB)により、旬な話題や情報をこまめに提供できた。 | C | | | |
| | | SNSによる情報発信 | 100回 | 134回 | | | | | |
| | ③ 関係機関への情報提供 | プレスリリース | 全事業 | ほぼ全事業 | | | | | |
| | | 情報誌等への情報提供 | 100回 | 164回 | 【プレスリリース】 ○報道機関に一律に情報提供を行うことにより、取材の機会を増やすことができた。 【情報誌】 ○毎月定期的に情報掲載を行っている情報誌のほかに、新規開拓も随時実施することができた。 【県ホームページ】 ○全事業において積極的に情報発信と更新を実施できた。 | B | | | |
| ④ 広報資料の提供 | 広報資料の提供 | 5回 | 5回 | ○県内外の計1,500箇所前後の施設等に配布し広報に努めた。 ●資料の活用状況を調整した上で発送先の見直しを含む改善を行う必要がある。 | C | | | | |
| □ 連携・企画 | ① 地域における美術制作事業の実施 | 地域での美術制作事業の参加者 | 1,000人 | 1,874人 | ○県内の中山間地域に焦点を当て、県内在住の美術作家が地場資源を活用した現地展開型の公開制作事業「『わがまち』いきいきアートプロジェクト」を高原町の2会場で実施。地域内外から参加者が訪れた。 | B | B | ・ほとんどの実績が目標を大きく上回っており、外部評価はAとすべきである。 | A |
| | ② 他の文化施設や学校教育、ボランティア等との連携 | 他館・施設との連携による取組 | 2件 | 2件 | 【連携】 ○年間2回の6館合同カレンダーの作成や「南九州アートライン」での企画事業の相互案内、展示会のチケット販売等を実施した。 ○平成25年度から県立図書館と県総合博物館と共同で行っている「3館ツアー」を、平成28年度から県立芸術劇場を加えた「4館ツアー」として拡大継続して実施。 【美術教材】 ○本館や県内の拠点校を活用してスムーズに貸出を実施することができた。 【サポーター】 ●より一層自立した活動が展開できる仕組み作りが必要である。 【インターンシップ】 ○学校等の要望に応じて希望校をすべて受け入れ、様々な体験実習を提供できた。 ●希望校のすべてを無理なく受け入れるためには、効率的な対応の工夫・改善が必要である。 | B | | | |
| | | 学校向け美術教材の貸出 | 30件 | 29件 | | | | | |
| | | 美術館サポーターの活動 | 40回 | 289回(個人の活動含む) | | | | | |
| | ③ 創作・発表の場の提供 | アトリエ利用件数 | 300件 | 335件 | 【アトリエ】 ○県民に広く活動していただくため、アトリエ3の受入人数の拡大を図った。 【県民ギャラリー】 ○43団体・個人が利用し、幅広いジャンルにおいて県民の作品発表及び鑑賞の場として提供できた。 ●備品の利用や使用料の納入期限など、ギャラリー使用に係る約束事が遵守できていないケースもあったため、職員の事前の確認と主催者への周知に努めることが必要である。 | B | | | |
| 県民ギャラリー稼働日数及び来場者数 | | 200日 40,000人 | 230日 36,596人 | | | | | | |
| ④ 宮崎県美術展の開催 | 応募点数 | 1000点 | 1,144点 | | | | | | |
| | 鑑賞者 | 4,500人 | 4,221人 | ○広く県民に作品発表の場と鑑賞の機会を提供することができた。 ●応募点数と鑑賞者ともに毎年減少している傾向がある。応募者の高齢化もあるが、特に若い世代から美術に親しみ興味関心を高めるための、学校と連携した中長期的な工夫が望まれる。 | B | | | | |

平成29年度(平成28年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票(試行版)

「成果及び課題」・・・成果:○ 課題:● 「評価」・・・A:目標を大きく上回った B:目標を達成した C:目標を下回った(又は着手したが実施できなかった) D:目標を大きく下回った(又は着手できなかった)

| 運営ビジョン | | 評価指標 | 年度間目標 | 平成28年度実績値 | 内部評価 | | | 外部評価 | |
|--------------|----------------------|----------------|----------|-----------|--|----|------|---|------|
| 基本方針 | 項目 | | | | 成果及び課題 | 評価 | 総合評価 | 委員の意見 | 総合評価 |
| □人材育成 | ①職員の人材育成等 | 県外研修・視察への派遣割合 | 100% | 100% | 【人材育成】 ○美術館の運営や保存技術及び鑑賞教育に係る研修などに積極的に参加し、日々の業務に還元している。 ○研修・視察への参加をとおして、全国の学芸員との人脈形成が拡大した。 ○他館の取組や企画展の視察及び聞き取り調査等により、諸業務の準備に当たって視野が拡大。 【博物館実習】 ○例年、夏季に1回の受入を行っているが、学生の要望に応じて春季にも1名の実習生を受け入れ、計2回実施した。 | B | B | ・年度間目標が100%の場合、実績が目標を上回ることがないため、評価はBの「目標を達成した」が最高となる。 ・当該項目の実績は100%を達成しており、(最高の)Bとすべきである。 | B |
| | ②博物館実習の受入 | 実習希望者の受入割合 | 100% | 100% | | | | | |
| □管理・運営及び付帯施設 | ①施設・設備の適切な管理 | 防災研修及び避難訓練の実施 | 100% | 100% | ○消防署職員の指導の下、消火設備の確認や避難誘導及び命救急に係る確認と訓練を実施した。 ○廊下等に置いてあった造作物等の廃棄・整理を適宜行い、避難経路の適切な確保に努めている。 ○職員の勤務体制が不規則であり、有事の際には訓練やマニュアルどおりに行動できない可能性もあるため、状況に応じて臨機応変に対応できるよう指導に努めている。 ●展示室の照明設備にちらつき等の不具合が出ているため改善が必要である。 | B | C | ・年間の来場者総数は事務局の重要な目標であり、これを達成できていないのであるから、外部評価はCでもやむを得ないのではないかと。 ・来場者数は既に「(2)展示」の判断材料となっており、1つのデータが複数の評価項目に影響するのは避けなければならない。 ・(8)は評価指標が3つであり、このうち2つが目標を達成しているのであるから、総合評価はBとすべきである。 | B |
| | | 検査等の指摘事項への対応 | 100% | 100% | | | | | |
| | ②施設の積極的な活用 | 来場者総数(館外活動を含む) | 180,000人 | 150,317人 | 【来場者】 ●3本開催した特別展の観覧者数が伸び悩んだこともあって、目標に届かなかった。開催事業全般に渡って、より積極的な情報発信、広報活動の展開が必要。 【ユニークベニュー】 ※平成29年度から実施 | C | | | |
| | | ユニークベニュー等来場者数 | 500人 | — | | | | | |
| ③環境衛生の維持 | 環境衛生面の顧客満足度 | 90% | — | ※データなし | — | | | | |
| ④付帯施設との連携 | ミュージアムショップや喫茶室の顧客満足度 | 65% | — | ※データなし | — | | | | |